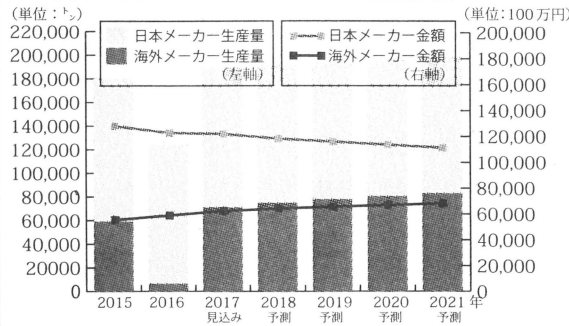


〔日本/海外メーカー別 トナー生産量推移〕



**市場調査会社のデータ**  
**サプライ(東京都台東区)**は、トナーの市場動向をまとめた。それによると、2016年のトナーの世界市場は、生産量ベースで前年比1.2%増の18万2320トに増加した。生産金額では同1.1%減の1813億2300万円に減少した。日本メーカーの減速を尻目に、海外メーカーの増加が17年以降も続く

**民間調査**

**16年トナー世界生産量1.2%増  
日本勢減速も海外勢は好調**

と予測する。  
 日本メーカーは生産量・生産金額ともに減少したのに対し、中国のサードパーティメーカーを中心に海外メーカーが生産量で年率10%増、生産金額で同6%増となり、全体を引き上げた。日本メーカーは17年はほぼ横ばいを維持する見込みだが、18年以降は減少すると予測する。海外メーカーの成長の勢いは今後も続くという。

手先ブランドによる生産(OEM)とサードパーティの生産量の比率はOEM65.1%、サードパーティ34.9%となり、サードパーティ向けが前年より2%も増加した。17年もサードパーティ向けがさらに2.4%程度増加すると予測する。

16年のトナー生産量は、キャノン17.8%、リコー9.3%、中国Handan6.9%、富士ゼロックス6.1%、コニカミノルタ6.0%、巴川製紙所6.0%、ゼロックス5.9%となっている。三菱ケミカルは、アジア工場の閉鎖により、17年、日本勢の変化は少ないが、Handanが全体の7.8%まで高まる予測する。台湾のTrendTone Imagingも成長している。これら詳細は「2017年版トナーマーケット総覧」で紹介されている。